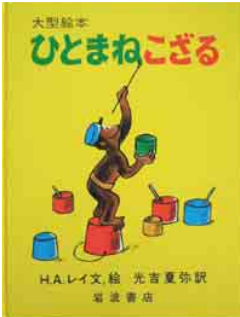


## ひとまねこざる

H. A. レイ 文・絵  
光吉夏弥 訳



岩波書店 1983年 1300円

知りたがりやのこざるのジョージは、ある日、動物園から逃げ出します。レストランの調理場でスパゲッティをまき散らして、皿洗いをさせられたり、ビルの窓ふきに雇われて、ペンキ屋さんが仕事をしている部屋に忍び込み、部屋中ペンキで落書きをしたりと大騒動をまきおこします。明るい動きのある絵でジョージのいたずらぶりがのびのびと描かれています。シリーズは「ひとまねこざるときいろいぼうし」などがあります。

## 100まんびきのねこ

ワンダ・ガアグ 文・絵  
いしいももこ 訳



福音館書店 1961年 900円

昔、とても年とったおばあさんが、とても年とったおじいさんにねこが1匹ほしいといいました。おじいさんは丘を越え谷間を通り、ついにねこでいっぱい丘にたどりつきました。どのねこもかわいいので、みんな連れて帰ることにしてしまいました…。「ひゃくまんびき、一おくーちょうひきのねこ」ということばのくり返しが心地よく、白地に黒1色で緻密に描かれた、丘をうめつくすねこたちに圧倒されます。

## ふしぎなたいこ

石井桃子 文  
清水崑 絵



岩波書店 1975年（初版1953年） 640円

げんごろうさんは、人の鼻を高くしたり低くしたりできる不思議な太鼓を持っていました。ある日、げんごろうさんは自分の鼻がどのくらい伸びるか試してみたくなり、太鼓をたたき続けました。ついに鼻は天まで伸び、天国の大工さんに棒と間違えられ、橋の欄干に縛りつけられてしまいます。他に「かえるのえんそく」「にげたにおうさん」が入っています。どれも愉快的な昔話で、たっぷりとした墨の線を使ったおおらかな絵が楽しい絵本です。